

# 地図を使って 身近な地域の特色を考えよう

朝倉市立杷木中学校 山田泰生

### はじめに

本稿は、「身近な地域を調べよう」の「福岡県朝倉市」の授業展開例である。「身近な地域の調査」は、新学習指導要領でも必修の単元であり、「日本の諸地域」の学校所在地を含む地域の学習と結びつけて扱うこともできるようになった。また、「2 内容」(2)の「エ 身近な地域の調査」の「内容の取り扱い」では、以下の記述がある。

…略 縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活用の技能を高めるようにすること。また、観察や調査の結果をまとめる際には、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換をしたりするなどの学習活動を充実させること。…略

これを受けて、今回は、2万5千分の1地形図、教科書や地図帳の図版や統計資料を数多く活用し、地理的な見方や考え方を育てるとともに適切に表現する能力や態度を育てる授業展開例を提案する。

## 2 空間認識について

社会を正しく理解するためには、情報の「整理箱」として頭の中に地図を描けることが重要となる。なぜなら、様々な情報を「頭の中の地図（メンタルマップ）」に整理することで、一面的・恣意的ではない地域理解を行うことができるからである。さらに、「頭の中の地図」をもつことで、



社会で生きて働く力として、次の3つの力を身につけることができると考える。

- ① 物事を広い視野からとらえる力
- ② 物事の因果関係について考える力
- ③ 物事の変化を空間的な広がりでもとらえることができる力

①は、地図を真上から見下ろすことで、まるで実際の土地を鳥のような視点から見下ろす感覚である。高い視点から広い視野で物事をとらえる見方を獲得することにより、自分中心の考えから脱却し、「客観的な視点」を身につけることができる。また、②・③では、物事を常に空間的にとらえようとするため、物事の関係や変化について空間を操作して論理的に考察する力を身につけることができる。

## 3 単元の構成について

時	学習活動・内容
第1時	①中学校周辺の景観写真をみて、地形図で撮影場所を確認する。 ・自然環境…筑紫平野、筑後川 ・産業…果樹栽培・歴史…三連水車

第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通…大分自動車道（高速道路）</li> <li>②空中写真、鳥瞰図、地形図を比較し、地理情報の記号化を知る。</li> </ul>
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地形図の縮尺のルールと地図記号について知る。</li> <li>②地形の断面図を作成し、等高線のしくみについて知る。</li> <li>・等高線の形と間隔(尾根と谷、傾斜)</li> </ul>
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>①周辺地域の土地利用図を作成する。</li> <li>②作成した土地利用図を基に、「なぜ疑問」を考える。</li> </ul>
第4時	<p>昭和28年「西日本水害」の事実から、周辺地域の自然条件を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の川の特徴</li> <li>・災害対策（ダム、放水路の建設）</li> </ul>
第5時	<p>学校周辺地域の土地利用図を基に、自然条件と農業の関係から特色を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的共通性：稲作と畑作</li> <li>・地方的特殊性：果樹栽培</li> </ul>
第6・7・8時	<p>「なぜ疑問」を基に設定した課題に関する調査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館、パソコン室の利用</li> <li>・フィールドワークによる調査</li> </ul>
第9・10時	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域的特色を説明するレポート作りの方法を知る。</li> <li>・地図や図表を用いた説明の方法</li> <li>②朝倉市杷木の地域的特色をまとめたレポートを作成する。</li> </ul> <p>果樹栽培 ← 自然的条件 → 観光・交通</p>

(※) 以上の10時間で構成する。

単元の導入では、まず、学校周辺の景観写真の撮影地点を地形図で探させ、身近な地域に対する興味・関心を高めさせ、空間を高い視点からとらえさせる学習を行った。次に、地図の「便利さ」について考える学習を行い、実物である空中写真よりも情報を記号化した地図のほうが便利である

ことに気づかせていった。さらに、縮尺・地図記号・等高線といった地図のルールについての知識を習得させる学習を設定し、その知識を基に土地利用図を作成させ、「なぜ疑問」を考えさせる活動を設定した。そして、地域的特色が発生する要因について、「自然条件」から考えさせるために、第4・5時で「筑後川の特徴」と「自然条件を活かした農業」についての学習を設定した。最後に、各自が設定した「なぜ疑問」に関する調査活動を行い、地図を用いた個人レポートにまとめる学習を設定した。

## 4 授業の実際（第4・5時）



写真左：1953（昭和28）年 西日本水害当時  
写真右：現在の昭和橋（朝倉市杷木）

### （第4時）【筑後川の特徴について】

過去の水害時の写真から「西日本水害」の事実を知り、降水量と水害の関係を河川の特徴から考える学習を設定した。また、「梅雨」、「台風」の発生時期や日本の河川の特徴（急勾配と流れの速さ）についても考える学習を設定した。



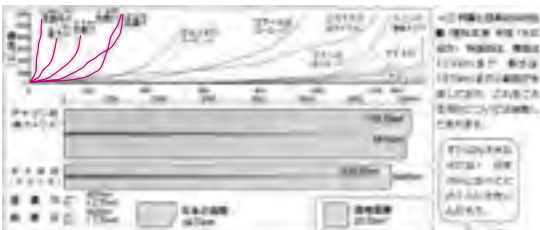
左：1年間の降水量  
（地図帳p.116）

下：おもな自然災害  
（教科書p.146③）



都市	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
東京	5.2	6.1	7.4	11.1	15.2	19.7	24.7	24.2	19.1	13.2	8.1	5.2	12.5
大阪	5.1	6.0	7.3	11.0	15.1	19.6	24.6	24.1	19.0	13.1	8.0	5.1	12.4
名古屋	5.0	5.9	7.2	10.9	15.0	19.5	24.5	24.0	18.9	13.0	7.9	5.0	12.3
福岡	5.3	6.2	7.5	11.2	15.3	19.8	24.8	24.3	19.2	13.3	8.2	5.3	12.6

日本のおもな都市の月平均気温・月平均降水量(地図帳p.128②)

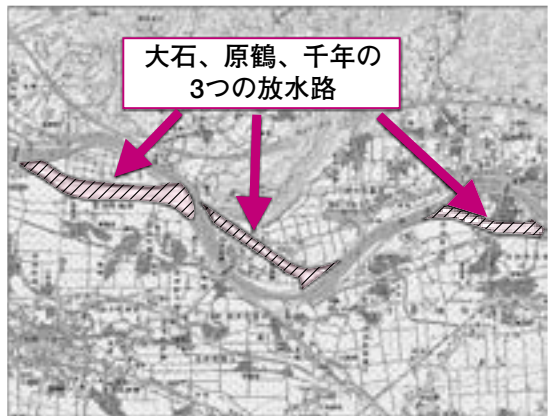


外国と日本の川の比較(教科書p.135⑦)

1953(昭和28)年、6月25～29日の5日間で筑後川の水源地域である大分県上津江では、1148mmの降水量を記録し、1890(明治22)年の洪水、1921(大正10)年の洪水と並んで「筑後川三大洪水」と呼ばれる被害がみられた。筑後川流域での死者は147人、被災者は54万人にもものぼるこの水害が発生した要因について、教科書p.135⑦の図版と地図帳p.127⑤の統計資料から考えさせ、日本の河川の特徴と梅雨時期の降雨を要因とする洪水の発生について気づかせる学習を行っていった。さらに、「もしも昭和28年のときと同じ降水量の降雨が現在あったら、洪水は起こるのか？」と発



左:日本のおもな川(地図帳p.127⑤)  
右:福岡県とそのまわり(地図帳p.76)



問し、地図帳p.76と地形図を基に考えさせ、「西日本水害」以降にダムや放水路が建設されていることに気づかせた。

### 【第5時】【自然条件を活かした農業について】

2万5千分の1の地形図から作成した水田と果樹園の土地利用図と、「広報あさくら『ふるさと人物誌』」を基に、「杷木地域は筑後川の水を利用していないのに、なぜ稲作を行えるのか？」と発問し、地形図と鳥瞰図(村松昭『日本の川「ちくごがわ」-偕成社-を活用)を使って因果関係を考察する学習を設定した。これにより、松末地区では、赤谷川の水を利用できる谷底の平地に棚田が作られ、稲作が行われていることに気づいていった。また、水利の悪かった久喜宮地区では、

#### 広報あさくら『ふるさと人物誌』

久喜宮は北と西を山に囲まれ、南は筑後川に沿っているにもかかわらず、久喜宮は粟や唐芋の産地として有名でした。しかし、水利の便が非常に悪く、また水田が極めて少ないため、食料も他村から購入しなければ不足する状態だった。…中略… 筑後川水面と畑地の高低差が6m以上あり、筑後川の水を引くためには、村から5km以上も上流の所から他の村を横切って掘り切るか、または暗渠(あんきょ)工事をしなければなりません。…中略… 満々と水をたたえている筑後川を見ては、この水を引くことが自分の一生の仕事と取り組んでいました。

『久喜宮に水田を作った 都合 徳太郎』より

三連水車（朝倉市菱野）



棚田（朝倉市松末）



棚田の役割を見なおす  
(地図帳 p.72ア)



大石堰（うきは市大石）

地理

歴史

公民

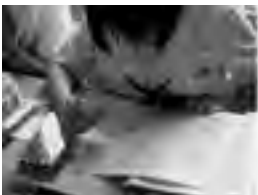
地図

社会科

1906（明治39）年に筑後川からの水を利用するための取水口と揚水場、15kmにもおよぶ水路も建設され、現在もなお水田を潤していることに気づいていった。さらに、志波地区を中心として、果樹栽培（柿づくり）が盛んな要因についても考えていった。生徒は、地形図と鳥瞰図を見比べながら考え、自分なりに因果関係を予想し、地形図を使って説明する姿がみられた。最後に、筑後川を挟んだ対岸の斜面との比較から、杷木地域の斜面が南向きであることに気づき、果樹栽培に適した地形であることを理解させていった。

## 5 おわりに

地域的特色が発生する因果関係を事象の分布から説明するためには、「頭の中の地図」に様々な地理情報を書き込むことが重要である。そこで、単元を通して、教科書や地図帳の図版、地形図を活用する学習を設定した。これにより、生徒は実際の土地を高い視点からとらえるようになり、事象の関係や変化について空間を操作して説明できるようになるので、地域的特色を考えさせる学習において教科書や地図帳の図版の活用は効果的であると考えられる。



地図で考える生徒



交流する生徒